

3. 文部科学大臣奨励賞

氏名	住所	受賞理由
<p>かみしほろちゅうりつねかひら 上士幌町立糠平小 学校</p>	<p>ほっかいどうかみしほろちゅうりつね 北海道上士幌町字 ねかひらきたく 糠平北区72番地</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和35年より、糠平湖畔の「小鳥の村」を中心に野鳥観測を定期的に行っている。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導 ひがし大雪博物館 川辺百樹氏・須田修氏 東大雪自然ガイドセンター 河田充氏</li> </ul> </li> <li>・昭和35年から、毎年（5月頃）巣箱かけを実施（過去1,000個以上）</li> <li>・児童による手作りの「小鳥のカレンダー」を作製し、糠平地区各家庭に配付（100冊）</li> <li>・冬季における野鳥への給餌活動（校庭に給餌台を設置）</li> <li>・野鳥新聞づくり、野鳥の分布調査、野鳥の標本づくりなどを授業カリキュラムにとり入れ、また、「小鳥クラブ」としての活動など愛鳥活動を通じて自然の大切さを学ぶ心を育成している。</li> </ul>
<p>としまぞんりつなかのしましゅう 十島村立中之島小 ・中学校</p>	<p>かごしまけんかごしまぐん 鹿児島県鹿児島郡 としまむらなかのしま 十島村中之島13 1番地</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巣箱設置によるアカヒゲの保護活動を毎年実施し、巣箱の設置環境のよい場所は巣が二重、三重になっていることから、1シーズンに2、3回巣をつくることや、日照条件、地上からの高さ（外的防止）、植物の密生状況や湿気、巣穴の大きさ、1回の産卵数、テリトリーの状況などから、設置環境による巣箱の利用状況の違いが分り、児童・生徒のアカヒゲ保護の関心が一層高まった。</li> <li>○ ウィークエンドサークル活動の一環として、講師を招いて、児童・生徒と保護者も一緒にバードウォッチングを実施し、くちばしや羽の色、大きさ（雀の大きさを基準に）などによる野鳥の見分け方や生息場所などについて学習し、野鳥への関心が高まった。 ※ 講師 鹿児島県立博物館学芸主事 山元幸夫氏</li> <li>○ 児童・生徒は、アカヒゲの保護を通じて野鳥に対するやさしさや豊かな心が育まれており、校庭に飛来する野鳥を温かく見守り、傷付いた野鳥がいた場合は手当てをして放鳥している。また児童・生徒はもとより保護者や島民全体（約180人）に、アカヒゲを中心に野鳥やその他の野生生物の愛護の精神が醸成され、併せてアカヒゲの羽数も年々増加している傾向が見られる。</li> <li>○ 毎年、愛鳥週間には全校児童・生徒で愛鳥ポスターや作文に取り組みコンクールに応募している。</li> </ul>